

2005年度 第21回  
在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



東京・三田の慶應義塾大学にて



筑波駅にて

RASA - アジアの農村と連帯する会  
Rural Asia Solidarity Association

氏名 ゲン ティ ホアン ジェム

Nguyen Thi Hoang Diem

国籍 ベトナム

大学 埼玉大学



( 留学目的 )

中学生の時から兄弟の中に二人は障害を持つということを気にした。そして大学の時、ボランティアで障害者と接触して、日常知識を教えたことがあった。そんな活動を通じて、もっと障害者問題について関心を持ってきた。そこでチャンスがあったと、ベトナムより障害者問題が注目されてきた日本へ留学することにした。障害者問題を深く理解し、日本の障害福祉政策を研究してからベトナムに戻って障害者に役に立つ教授になりたいと思う。

( 研究課題 )

今日「出生前診断」という医療技術によって、多くの障害胎児が障害を理由に殺されている。それに対して、私は子供の将来に大きな不安を持っている。障害児が安全に生まれ、社会の中に積極的に参加させる、及び親が安心して産み、子供を育てられる状況を作れるように「障害児の生まれる権利と親の選択権」について研究したいと思う。「障害児の生まれる権利と親の選択権」について理解している人が多くいるということはもっと障害児・者や身近のことを理解されていくのではないかと私思う。

氏名 Sirirat Ngamsang  
国籍 タイ  
大学 筑波大学



( 留学目的 )

私はタイの大学で歯科医学部を卒業した後、東北タイのシーサケート県で働いていました。歯科医の勤務を続ける中で直面した麻薬問題や精神医療上の問題等々を解するにはより包括的な文化と宗教の力を研究し、総合的な対処法を政策の中に織り込んでいなければならないと考えるようになり、日本留学の道を選んでおります。又、日本の大学院で研究したい目的は、日本の様々な教科、教材の発展性から、規律や規則を重んじる日本人の教育課程の実態はどのようなシステムになっているのか、日本の教育制度をしっかりと見極めてみたいと考えています。

( 研究課題 )

2005 年：仏教的瞑想のもつ医療的機能に関わる研究

2004 年：タイの東北地方における仏教の寺院の新たな役割

タイでは寺院は地方発展のための地域的な重要財産の一つである。タイの仏教寺院は宗教団体の宗教的の役割だけではなく、教育・文化保全・医療などの役割を担っている。現在急速な社会変化をしている段階、国際社会では、私の研究計画ではタイの東北地方において仏教寺院の新たな役割について焦点を当てている。

氏名 KAGAMI, Tzofit  
国籍 イスラエル  
大学 東京大学



( 留学目的 )

フィンランドの世界でも有数な木の文化を学ぶことで、日本の伝統木造建築へ強く関心を持つようになりました。これらの木造建築が持つ価値は、歴史的なものだけでなく、現代の建築を考える上でも重要なものと考えています。イスラエルにおける木造建築の文化は人々の間に強い要求があるのにも拘わらず、未だ発展途上のものです。博士課程修了後は、イスラエルにもどり、実務と高等教育の両面から、木造を中心とした建築の工法および、意匠の発展に貢献したいと希望し、東京大学の博士課程に入学しました。

( 研究課題 )

研究テーマは、日本の伝統建築における基壇の研究です。屋根と軸組に並び日本建築の三大要素の一つである基壇は、人と建築、建築と周辺環境の接点となる場所です。これまで縁側や床を別々に論じた研究はありますが、それらを一つの水平面として考察したものは、まだありません。ここでは伝統建築において、基壇が実用性からのみ発展してきたのではなく、建物の意匠的な特質を形作っていくうえで、重要な働きをしているという点を、工法、素材、詳細納まりなど、基壇を実際に成立させている要素に着目し、分析していきたいと計画しています。

氏名 Ghimire Bhushan  
国籍 ネパール  
大学 上智大学



( 留学目的 )

私はジャーナリズムとマス・コミュニケーションに関するより高次の研究を続けることを切望していたが、ネパールのアカデミアにはそれらに関する研究機構がなく、私は、この機会を外国へ求めざるをえなかった。日本はアジア地域にあって、世界で最もこの分野における発展が顕著な国の一つである。さらに、平和を愛し、自由で安定した社会的秩序のもとで、私たちアジア諸国の外人は多くのことを同時に学ぶことができる。そこで、日本のジャーナリズムの研究分野で多くの成果を上げている上智大学大学院新聞学専攻で学んでいる。( 2002 年客員研究員、2005 年から博士前期課程在学中 )

( 研究課題 )

私の研究テーマは「日本とネパールのメディアの発展に関する比較研究」である。ネパールのジャーナリズム、あるいはメディアの民主的発展の萌芽は十数年前に始まったばかりであるため、日本に比べれば多くの規制が存在する。そこで発展途上の入り口にあるネパールのメディアの今日の問題状況を明らかにし、日本の発展過程と比較することによって、今後のネパールのメディアのあり方を探りたいと考えている。

氏名 李尚珍  
LEE Sang Jin  
国籍 韓国  
大学 お茶の水女子大学



（留学目的）

韓国の大学でアジア交流史を勉強する中、アジアの国々が似ているようで異なるところの多いことに気づきました。さらに会社での実務の中、特に日本人とのつき合いを通して互いに「先入見」や「疑念」などが多いことを感じました。そして互いの歴史的背景によって摩擦と葛藤が続いていることを知りました。人から伝えられるものではなく、私自身が直接見て、聞いて、感じて、知りたいと思い、日本への留学を決めました。

（研究課題）

私の研究課題は、「朝鮮白磁と民芸品」の価値を発掘・紹介し守ってきた日本人「浅川巧」と彼の「日韓文化交流における実践的なモデル」です。浅川巧は、日本政府による朝鮮植民地支配が進む 1914 年から朝鮮に移り住み、当初は総督府官吏として林業の技術開発に携わり、注目すべき「露天埋蔵法」を発見したことで有名です。日本人だけでなく、当時の朝鮮の人々の＜民族の固有性＞への自覚を覚醒せしめた浅川巧の朝鮮観の背景には、彼がキリスト者として自由と平等を求める苦悩の過程（宗教観）が存在し、これが彼の思想のバックグラウンドを形成しています。そしてこれは、私の研究テーマである「日韓文化交流における実践的なモデル」にとって極めて重要な一部にもなっています。

氏名 YUN Hyun Sook  
国籍 韓国  
大学 上智大学



（来日までの略歴）

高校を卒業し短大に進んで日本語を勉強しました。短大を卒業して大手企業に入り 8 年間社長秘書を勤めました。知人のついででカナダに行き、一年半英語を勉強しテンブル大学の日本分校に入学しました。

（留学目的）

東洋の歴史について、単に韓国の中だけの視点から研究するのではなくて、グローバルな研究をし、日本語や英語の文献を使って研究をしたいと思いました。テンブル大学も上智大学もグローバルな研究をするのに適当な外交でした。

（研究課題）

日本と韓国の橋わたしをした先駆者である雨森芳州について江戸時代から近現代に至るまで、彼の思想がどのように評価されたかを研究しています。その一つは彼が書いた「交隣提醒」も英語に翻訳する研究もしたいと思っています。

氏名 金 寿蓮  
JIN Shou Lian  
国籍 中国  
大学 淑徳大学



( 留学目的 )

私は二度目の日本留学を経験しますが、留学生活 4 年間の勉強を通じて、やっと自分がこれから生きる研究への方向を見つけることができました。「貧困」問題はますます中国の社会において大きな社会問題となってます。しかし、中国の社会保障はとても貧弱であります。日本の「生活保護制度」を始める貧困研究と対策はきっと中国のこれからの貧困問題対策によい経験であると信じ、日本の貧困問題対策の勉強をしたいと思い、留学を続けようと思いました。

( 研究課題 )

博士課程では主に「生活保護制度を中心とした日本の貧困研究」を考えています。明治以後の日本社会の各段階における貧困問題の捉え方・対策、生活保護制度の成り立ち、日本の法的行政的特徴や問題点を把握するとともに、日本の貧困研究からの経験を如何に社会システムの違う中国に活かしていくか、中国のこれからの貧困問題対策へのアプローチを行うことを大きなテーマとしています。



氏名 Govinda Rizal  
国籍 ブータン  
大学 京都大学



( 留学目的 )

During my Bachelors Degree in Agriculture, I took Plant Breeding as an elective (major) subject. I wanted to do more research in the subject but the limited resources and facilities of the campus was the constraint. As Kyoto University is a renowned university with facilities for practical works and researches, I decided to study here.

私は大学の学部で農学を専攻している際、育苗学を主専攻として選択しました。私はこの分野の研究をもっとしたいと思いましたが、( 留学先のネパールの ) 大学の施設・設備には限界がありました。京都大学は実践的な研究や成果をもたらす施設に恵まれた、有名な大学なので、ここでの研究を決意しました。

( 研究課題 )

Improvement of Protein Quality in Soybean through Genetic Transformation.

遺伝子変換を通じた大豆タンパクの質の向上

氏名 金珍熙  
KIM Jin Hee  
国籍 韓国  
大学 筑波大学



( 留学目的 )

私が勤務した釜山大学校附属保育園では2000年度から山口大学附属幼稚園と姉妹校を結びましたため、そのきっかけで2000年6月頃、研修の目的で日本に参りました。滞在期間は1週間しかありませんでしたが、日本では幼稚園や保育園等に統合されている障害幼児がたくさんいることや、その障害幼児のために配慮する姿に感心しましたので、韓国と教育システムの面において類似な点の多い日本で熱心に研究し、韓国の教育現場で有効に活用できる研究者・実践者になりたいと思います。

( 研究課題 )

障害児と健常児と一緒に保育をうけることを「統合保育」と言いますが、「場の統合」だけでは一人一人の障害幼児のニーズに応じた統合保育の実現は難しいと言えます。すなわち、統合保育の有効性を最大化するためには、幼稚園や保育所における障害幼児への教育的支援を実践していくために必要な「個別指導計画」のマニュアル作成及び書式を作り、個々の幼児への実態把握や、個々の幼児に必要な発達課題を見出す作業、長期目標・短期目標の設定、地域との連携及び専門家・専門機関と連携の活用、保育活動に即した介入プログラム導入等、多角的な支援システムに基づき、統合保育の方法論の開発について検討していきたいと思います。